

< 第3回消費者行政新未来創造プロジェクト検証専門調査会 説明資料 >

栄養成分表示等の活用に向けた 消費者教育について

平成30年6月8日
消費者庁食品表示企画課

消費者が自らの食生活の状況に応じた適切な食品の選択ができるよう、栄養成分表示等の活用による バランスの取れた食生活の普及啓発、保健機能食品の適切な利用に関する消費者の理解促進が重要

平成27年度から、原則として全ての加工食品に対し栄養成分表示が義務化されている。

栄養成分表示等の活用に資する教育媒体の作成や効果的な教育方法の構築

徳島県内外において各種検証を実施

徳島県内において、試行的取組を行い、教育媒体の効果を検証

徳島県内外において、地域特性を活かした消費者教育を推進する際のポイント等をまとめた実施要領を作成するために、効果的な教育方法や体制づくりについて検証



自治体及び事業者へのヒアリング(栄養成分表示等についての取組状況や課題等)

平成29年度の主な成果

- ・平成29年度調査事業(徳島大学への委託事業)により、**徳島県藍住町で栄養成分表示等の活用に関する試行的取組を行い、消費者向け教材及び指導要領(最終版)を作成**
- ・**徳島県及び県内の10事業者**に対し、栄養成分表示等についての取組状況や課題等に関する**ヒアリングを実施し、取組事例を収集及び整理**

【栄養成分表示の例】

栄養成分表示 (1包装(2個)当たり)	
熱量	47.6 kcal
たんぱく質	17.2 g
脂質	22.7 g
炭水化物	52.0 g
糖質	49.3 g
食物繊維	2.7 g
食塩相当量	3.6 g
鉄	1.4 mg



平成30年度は、地域特性を活かした消費者教育を推進する際のポイント等をまとめた実施要領を作成する。

平成29年度調査事業の概要

基本媒体	消費者向け教材・指導要領の改良	教育方法や体制づくりの検討
若年女性		
中高年者(メタボ予防)		
高齢者(低栄養予防)		
保健機能食品		

【ポイント】実際に利用し、学習者側、支援者側からの意見をもとに検証し、改良

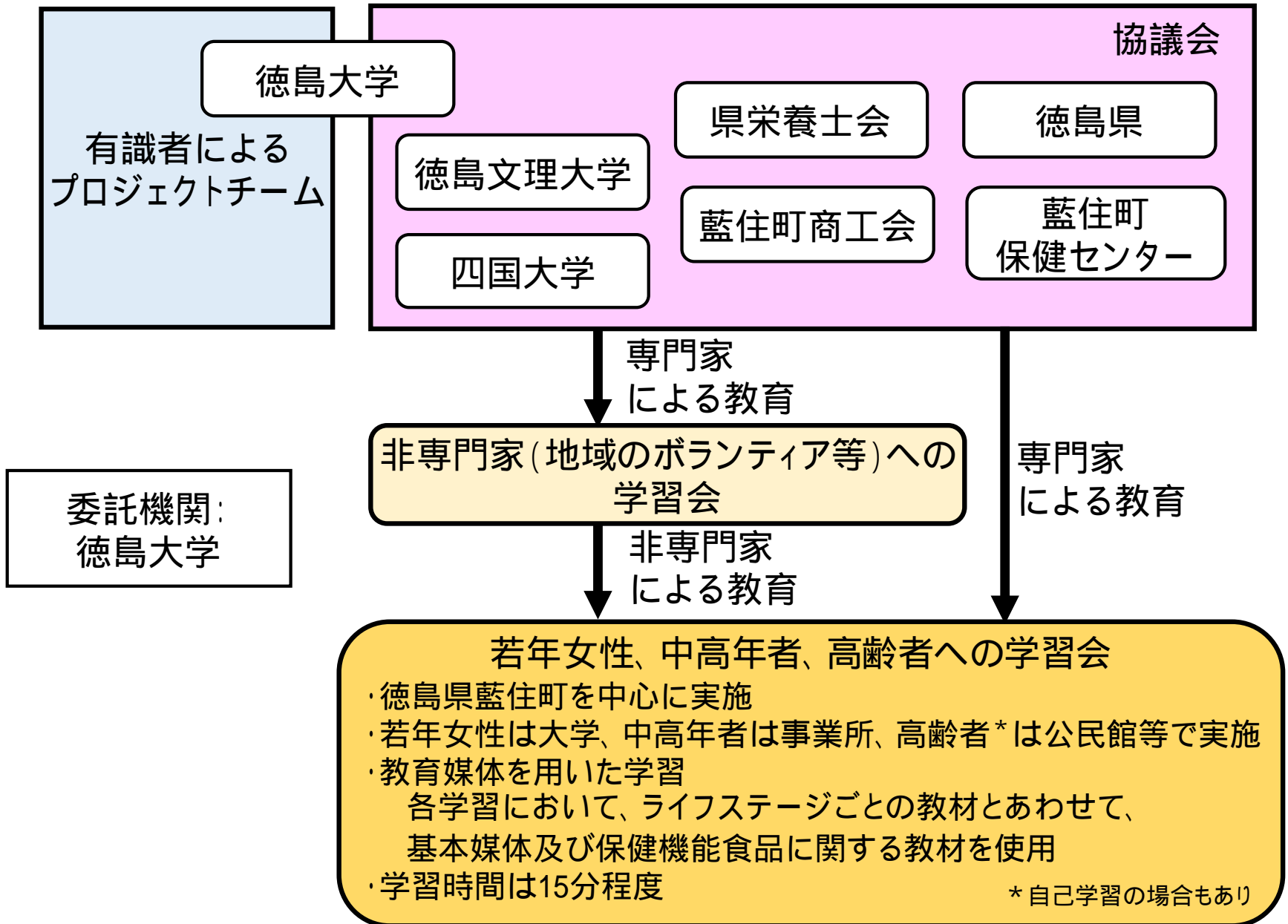
- ・学習者が、理解しにくかった点
- ・支援者として、使いにくかった点
- ・消費者向け教材に加えた方がよい点
- ・指導要領に加えた方がよい点

【ポイント】効果的な消費者教育の実施のために、

- ・自治体や他の機関・団体、社会資源等との連携について検証
- ・役割分担、協働体制について検討

【ポイント】今後の全国展開に向けて配慮が必要な点を考察

平成29年度調査事業の検証方法



【実施時期】

- 平成29年11月～平成30年1月

【学習者】

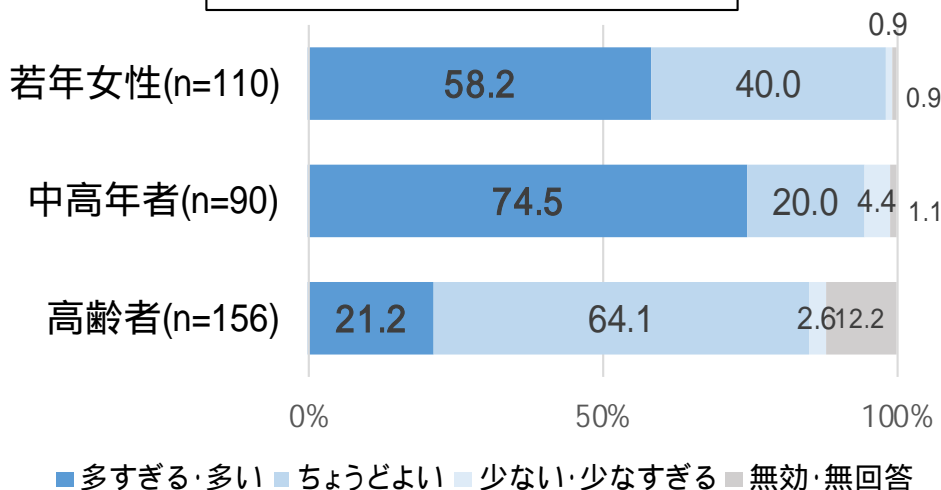
- 学習会前、学習会直後、学習会1ヶ月後にアンケート調査を実施
- 主な調査内容は、教材に関する評価、栄養及び栄養成分表示に関する知識、意識、行動
- 対象は、
 - 若年女性：徳島県内S大学の女子学生 110名
 - 中高年者：町内事業所に勤務する男女 90名
 - 高齢者：町内公民館等で開催された学習会に参加した男女 156名

【支援者】

- 学習会後にアンケート調査を実施。
- 主な調査内容は、教材に関する評価、学習支援の経験、実施した学習内容
- 支援者は、専門家27名、非専門家25名
 - 専門家：県栄養士会から派遣された管理栄養士等、栄養に関する専門資格を有している者
 - 非専門家：事業所の労働安全衛生担当、食生活改善推進協議会会員等、栄養に関係する専門資格を有していない者

消費者向け教材に関する評価(学習直後)

分量はどうであったか？

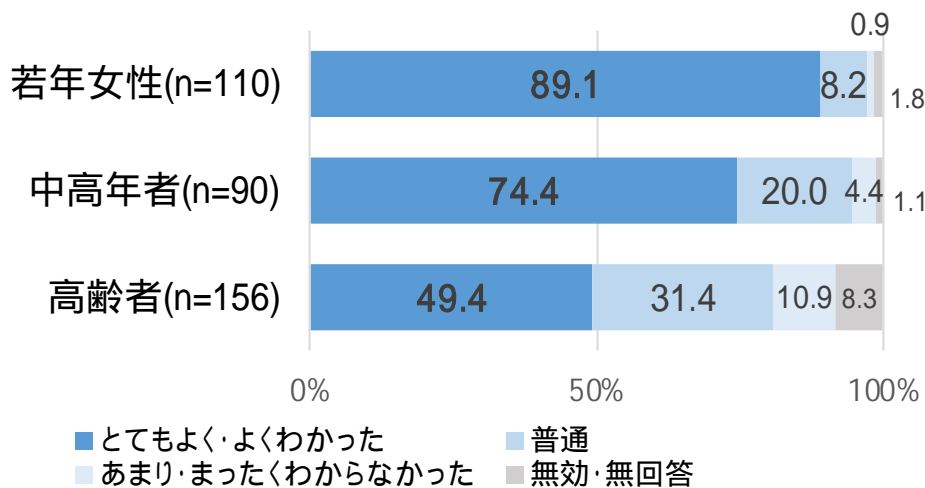


< 5種類の消費者向け教材 >

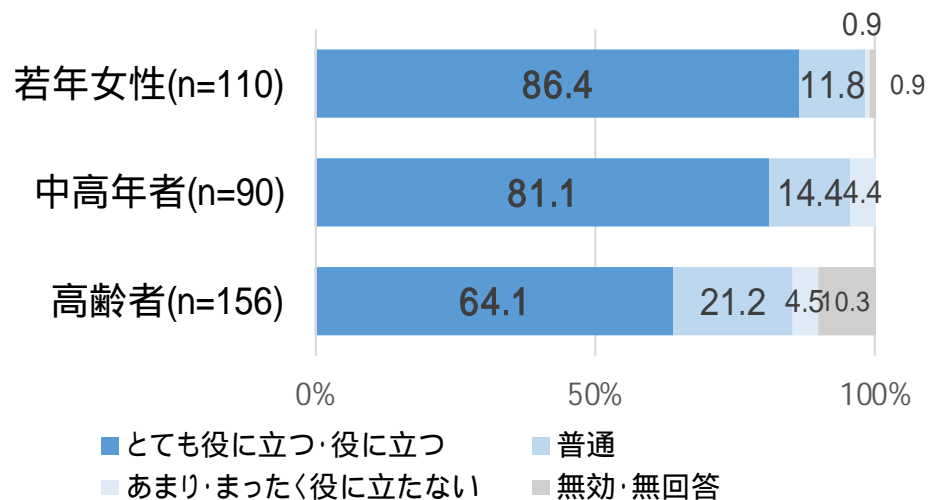


各学習において、ライフステージごとの教材とあわせて、基本媒体及び保健機能食品に関する教材を使用。

内容はよくわかったか？



今後の食生活に役立つと思うか？



栄養に関する知識の学習前後の変化



必要なエネルギーの量を知っているか？

1日当たりの食塩相当量の目標量はどのくらいか？

若年女性

学習前(n=109) 11.0 89.0

学習直後(n=108) 85.2 14.8

学習1ヶ月後(n=56) 67.9 32.1

中高年者

学習前(n=89) 20.2 79.8

学習直後(n=88) 80.7 19.3

学習1ヶ月後(n=75) 66.7 33.3

高齢者

学習前(n=138) 31.9 68.1

学習直後(n=134) 67.9 32.1

学習1ヶ月後(n=103) 68.9 31.1

0% 50% 100%

■ 知っている ■ 知らない

若年女性

学習前(n=110) 10.9 89.1

学習直後(n=109) 77.1 22.9

学習1ヶ月後(n=56) 64.3 35.7

中高年者

学習前(n=90) 12.2 87.8

学習直後(n=87) 65.5 34.5

学習1ヶ月後(n=73) 57.5 42.5

高齢者

学習前(n=145) 22.8 77.2

学習直後(n=143) 57.3 42.7

学習1ヶ月後(n=141) 33.3 66.7

0% 50% 100%

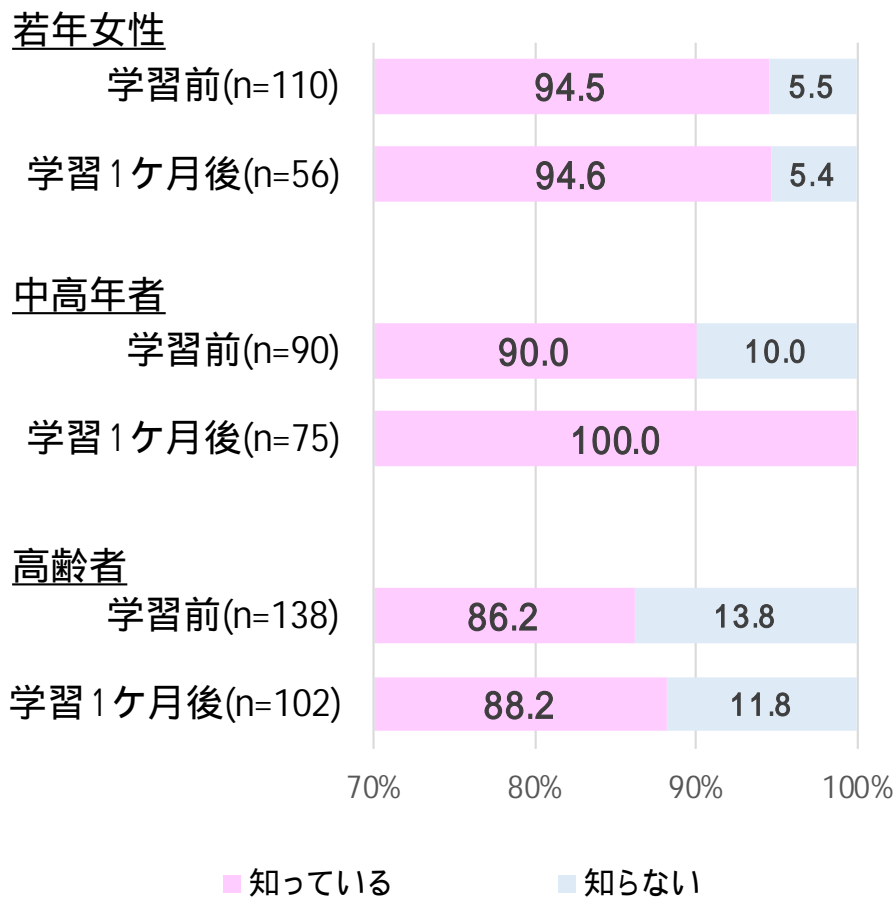
■ 正しく理解している ■ 理解できていない

無効・無回答を除いた結果

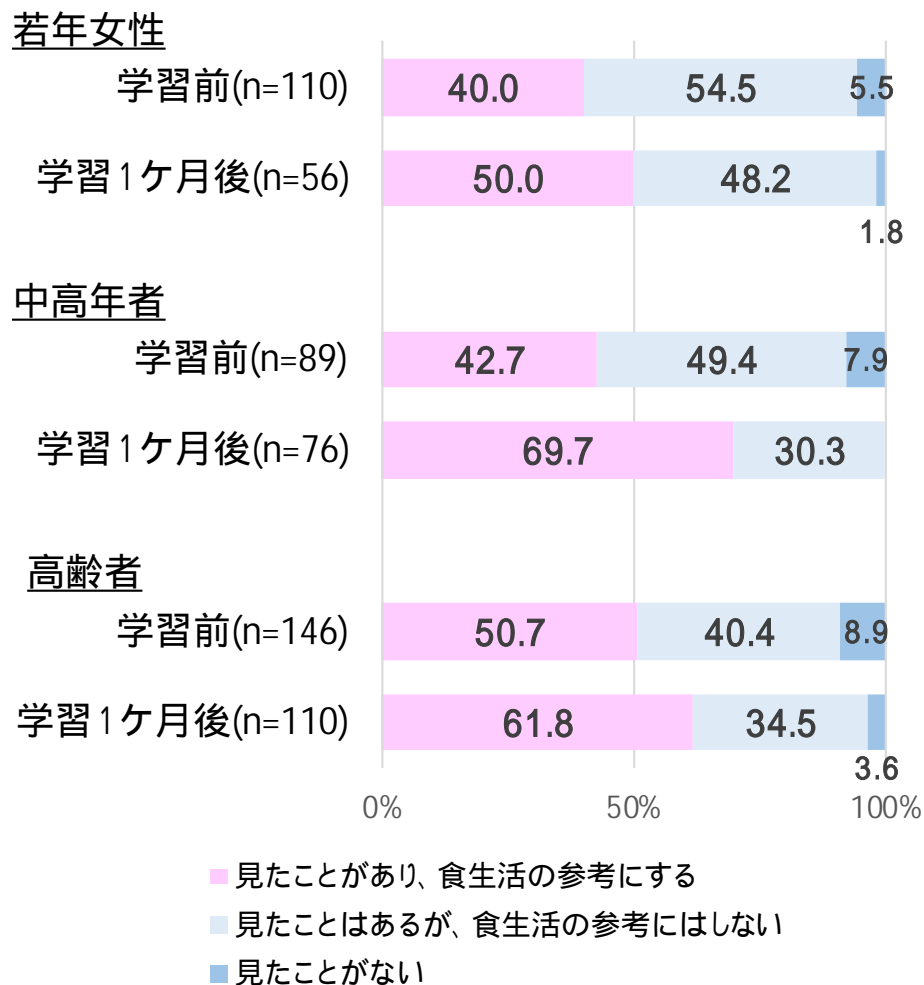
「栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育に関する調査事業報告書」を基に作成

栄養成分表示の認識や利用に関する学習前後の変化

栄養成分表示がされていることを知っているか？



栄養成分表示を見たことがあるか？



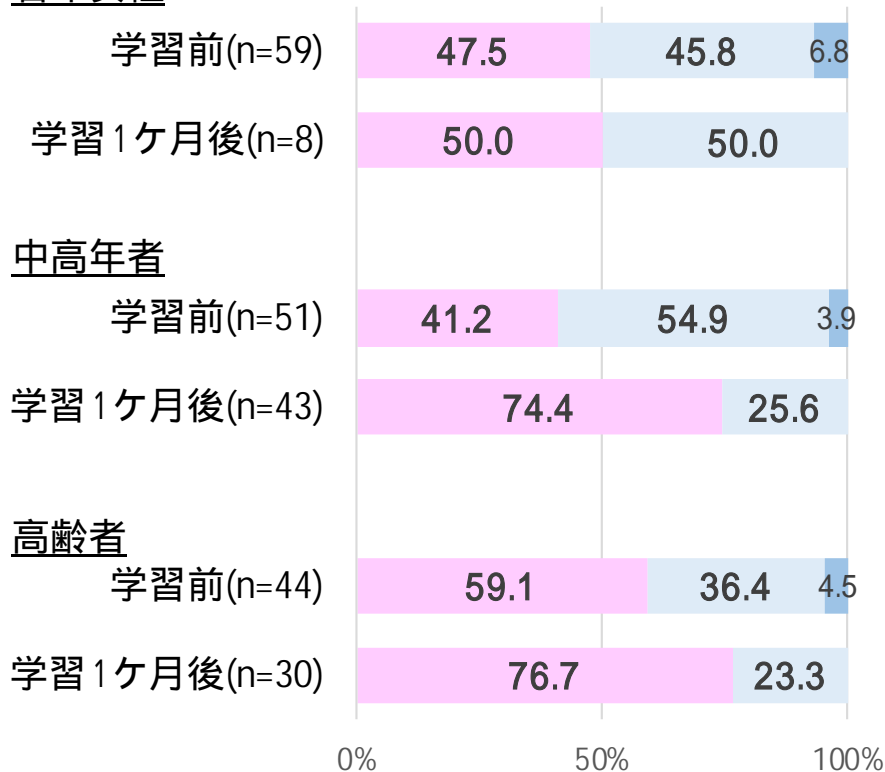
無効・無回答を除いた結果

「栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育に関する調査事業報告書」を基に作成

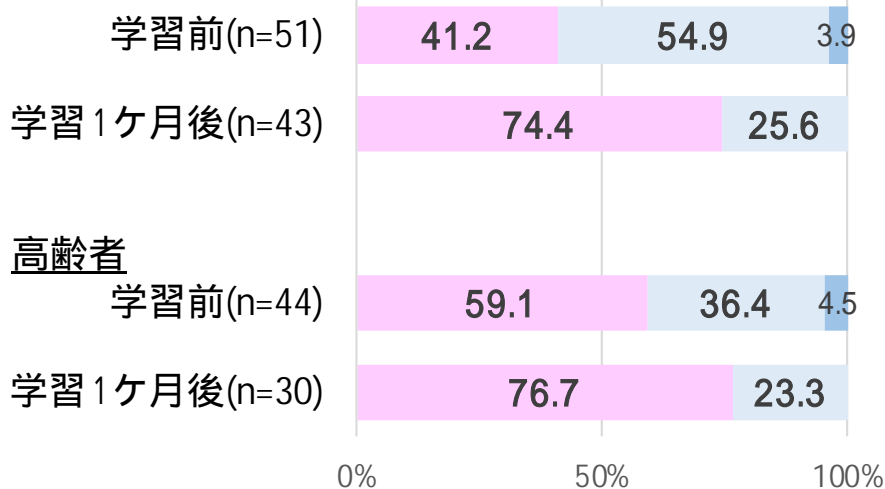
支援者別 栄養成分表示の利用に関する学習前後の変化

専門家による教育を受けた場合

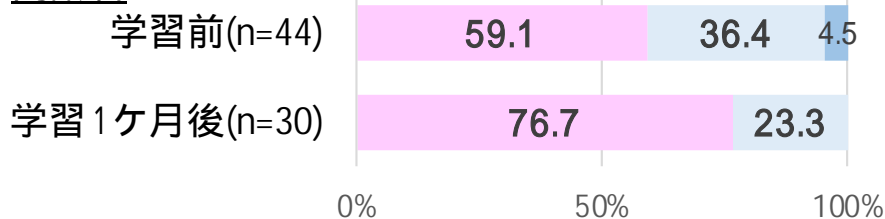
若年女性



中高年者



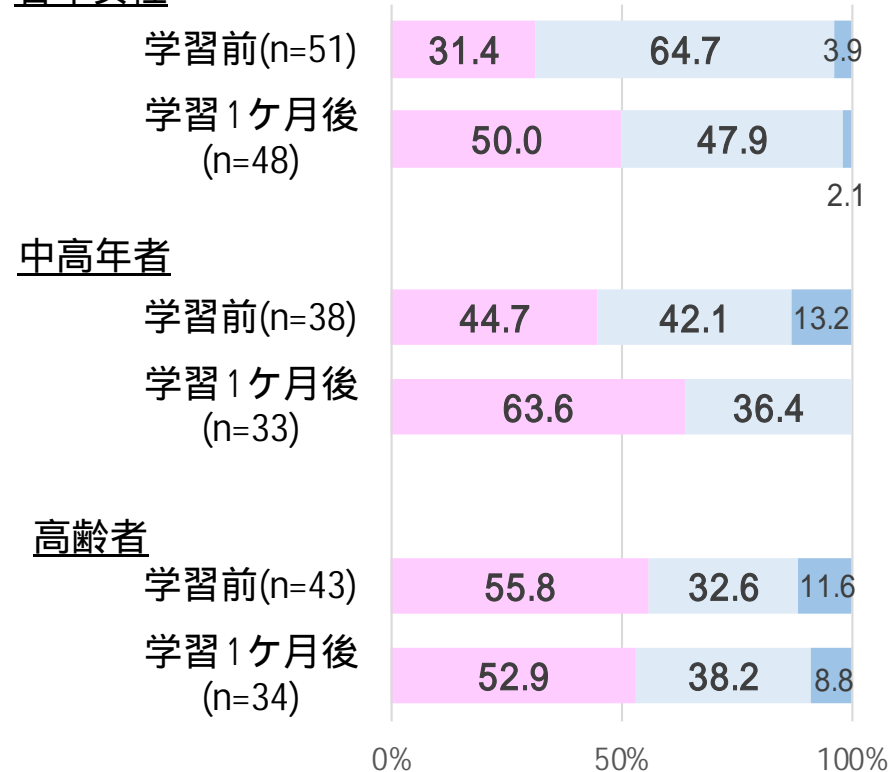
高齢者



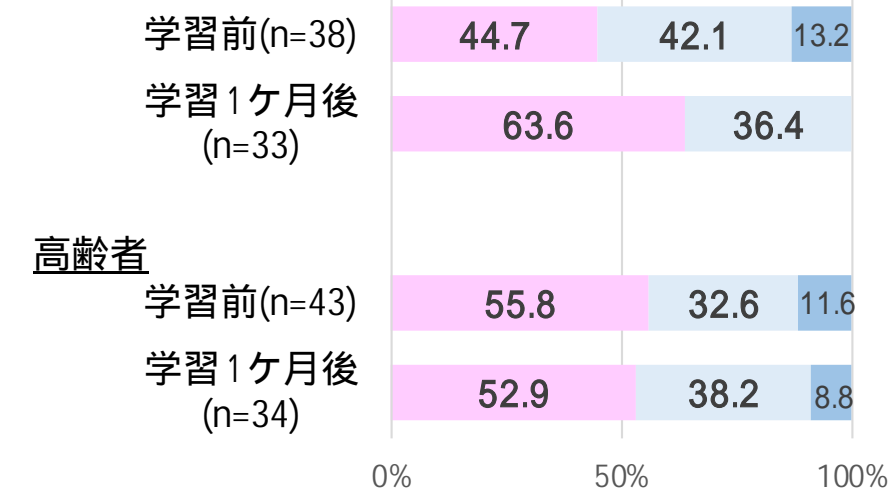
- 見たことがあり、食生活の参考にする
- 見たことはあるが、食生活の参考にはしない
- 見たことがない

非専門家による教育を受けた場合

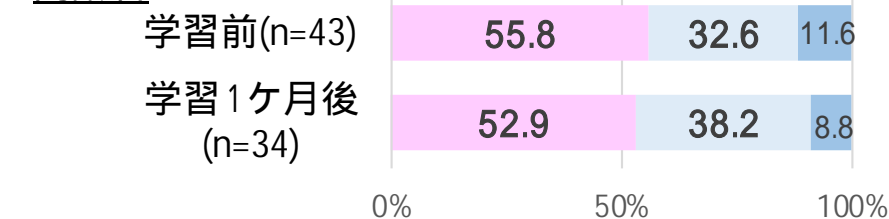
若年女性



中高年者



高齢者

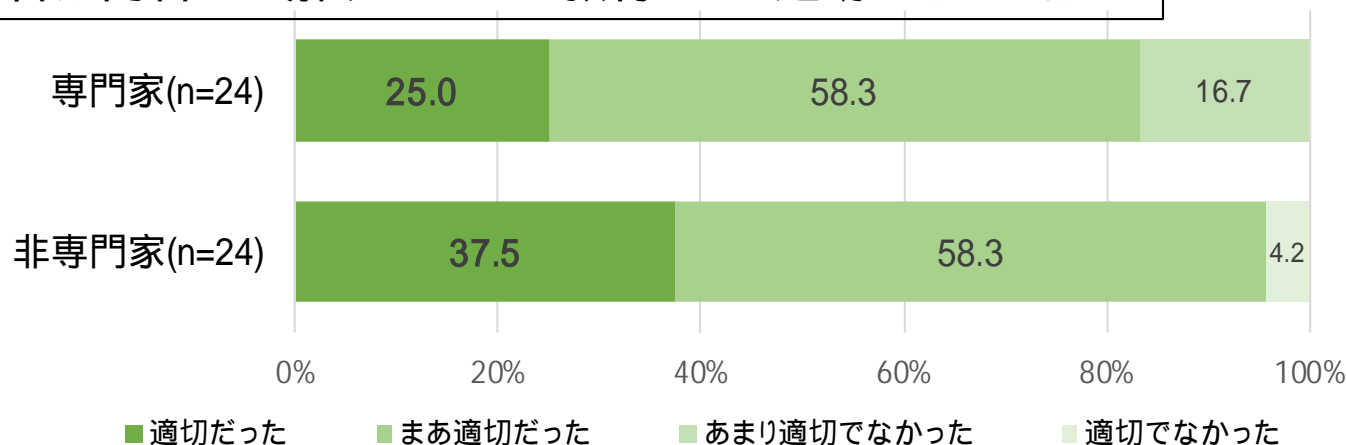


- 見たことがあり、食生活の参考にする
- 見たことはあるが、食生活の参考にはしない
- 見たことがない

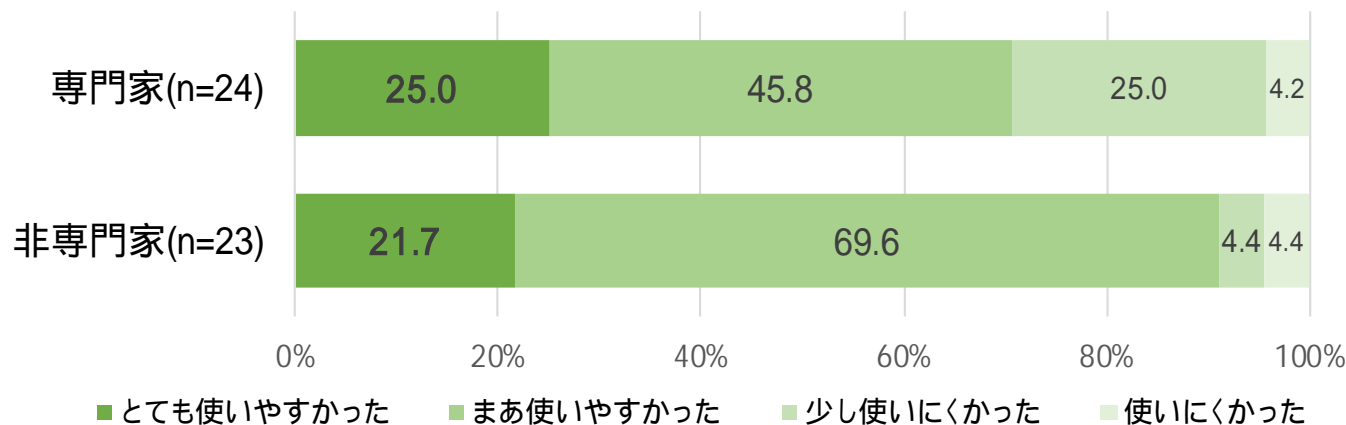
無効・無回答を除いた結果
「栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育に関する調査事業報告書」を基に作成

消費者向け教材に関する評価

教材は学習者が内容を理解するための教材として適切であったか？

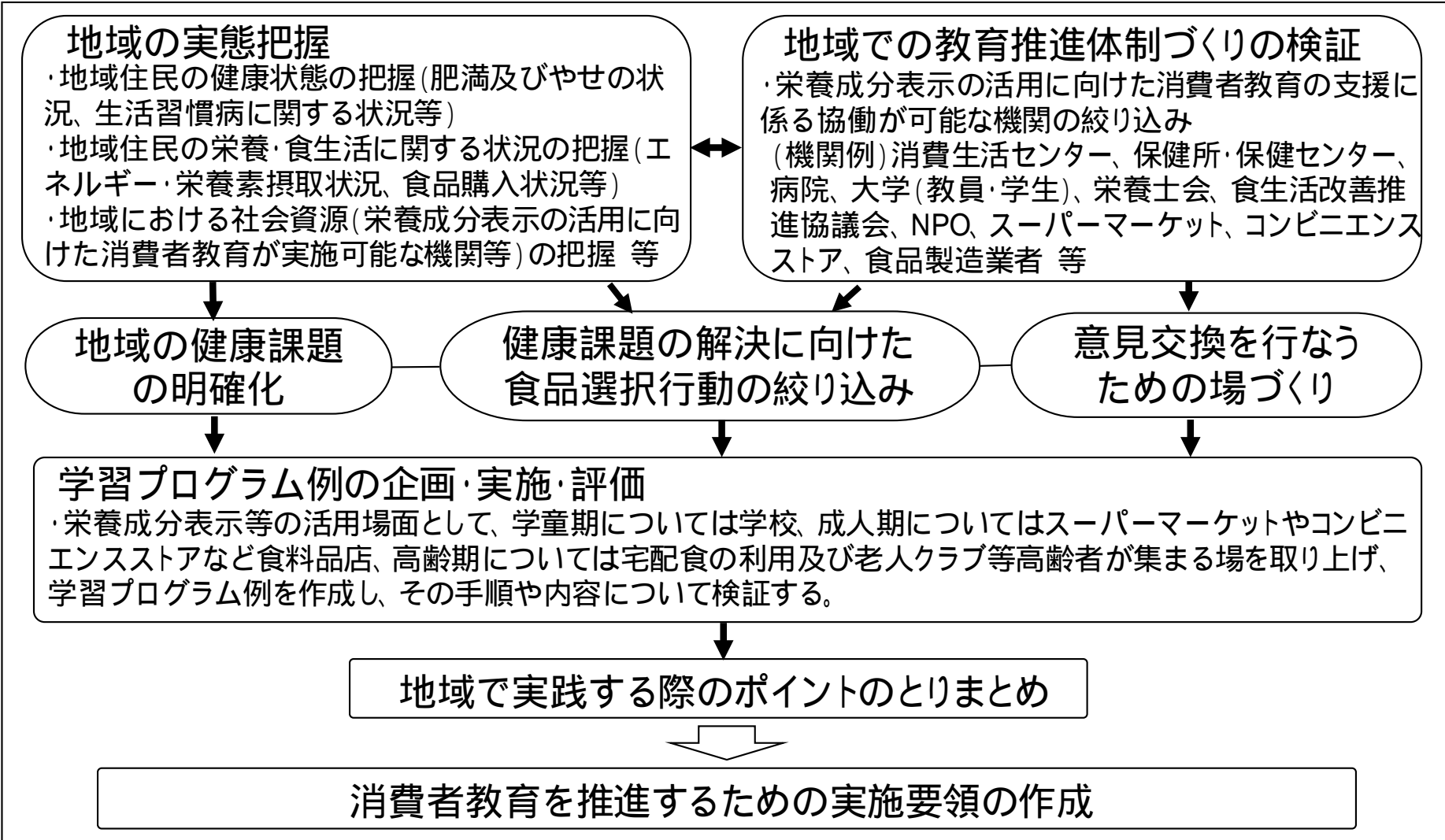


学習を進める上で使いやすい教材だったか？



無効・無回答を除いた結果
「栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育に関する調査事業報告書」を基に作成

地域特性を活かした栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育の推進



地域住民の健康の保護及び増進

自主的・合理的で適切な食品選択ができる地域社会の形成

消費者が安心して安全で豊かな消費生活を営むことができる社会の実現 11